

大学における研究力向上への新たな取組み(第3報) ～学科の枠を超えた研究プロジェクトチームの効果～

○内島典子(北見工業大学 地域共同研究センター)

鞘師 守(北見工業大学 地域共同研究センター)

1. はじめに

北見工業大学は日本最北端の国立大学であり、その立地環境を最大限に活かした寒冷域工学の拠点形成を目指している。平成16年4月、法人化後、各国立大学では、学長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学経営体制の構築、法人化のメリットを活かした教育研究機能の強化など、様々な取組みを展開している。北見工業大学は、本学全体の研究力向上と研究の個性化、活性化、高度化を目指し、研究推進センターと呼ばれる大型研究プロジェクト組織14チームを発足した¹⁾。研究推進センターは、地域独特の課題への取組みや共同研究の実施、大型外部資金導入へと繋がる競争的資金獲得への提案などに取り組んでいる²⁾。

2. 研究力向上への効果

現在、研究推進センターの参画教員は発足当初より12名増え、本学教員155名(助手以上)のうち79名の51%が参画している(平成19年4月現在)。北見工業大学は教員の研究や教育への意識の活性化を目指し、教員の点数制評価制度を立ち上げている。教育、研究、外部資金導入、産学官連携等を評価し、研究費の傾斜配分や優遇施策のみならず、給与待遇面にも反映している。図1に平成18年度の教育・研究・大学活性化・社会貢献活動の総合評価点の学科別比較を示す³⁾。平成18年度における教育研究活動は平成17年度よりも相対的に4%上回った結果が得られた。研究面においては特に30代の助教授(現、准教授)が秀でていた結果が得られた。

図2に競争的資金の代表でもある科学研究費の申請数および採択数の推移を示す。研究推進センター発足後、科学研究費への申請数は増加している。

3. まとめ

教員の点数制評価制度による評価結果および競争的資金獲得への姿勢より、教員の研究意識の向上が伺える。特に若い教員の研究意識の向上が示された。若手研究者にとって、研究推進センターは研究活動の場のひとつとなり、研究意識の向上に繋がったと考えられる。また、教員の半数が研究推進センターに参画していることから、研究推進センターの発足により、教員全体の研究意識が向上していると考えられる。



図1 平成18年度総合評価点の学科別比較³⁾
(平成17年度との相対比較)

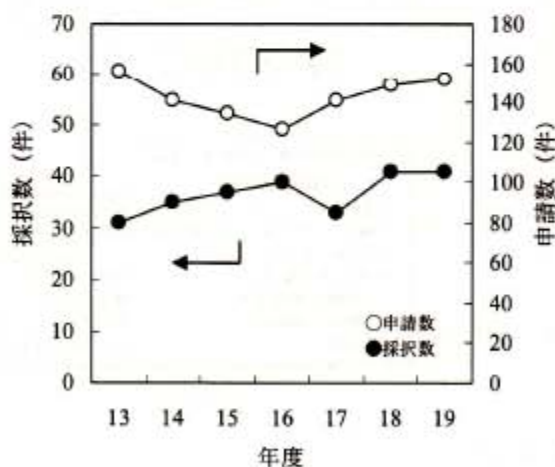


図2 科学研究費申請数および採択数推移

1) 「大学における研究力向上への新たな取組み-学科の枠を超えた研究プロジェクトチームの発足-」, 産学連携学会第4回大会(平成18年6月)内島典子, 鞘師守。

2) 「大学における研究力向上への新たな取組み(第2報)-学科の枠を超えた研究プロジェクトチームの取組み-」, 産学連携学会第5回大会(平成19年6月)内島典子, 鞘師守。

3) 北見工業大学における教員評価制度と評価結果の報告(http://www.kitami-it.ac.jp/pubdoc/kyouin_hyouka_kekka_H18.pdf)